

午前 11 時 15 分 開議

議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を開きます。

次に、五十嵐健一郎議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。〔17番 五十嵐健一郎君登壇〕

17番（五十嵐健一郎君）

清政クラブの五十嵐健一郎です。

通告書に基づき一般質問をさせていただきます。

1、地域医療体制の充実について。

先ほど渡辺議員からもありましたように、第2次総合計画の市民アンケートによりますと優秀な医者の定着（安心して住める、安心できる病院）とか、税金を投入してまで整備した救急医療機関のほが殿様商売している。糸魚川でしかできないような医療等を考えて特徴のあるまちづくりにしてほしいという意見もございますし、地域医療体制の維持・充実、救急医療体制の維持・充実、大変重要であるが7割以上でした。

そこで、以下の項目について現状・分析・課題及び今後の取り組みと将来の方向性についてお伺いします。

- (1) 医療施設等設備整備について。
- (2) 救急医療体制について。
- (3) 医師確保対策について。
- (4) プロジェクトチーム医療の設置について。
- (5) 糸魚川地域のドクターヘリ運航事業について。
- (6) I I S A 通訳（医療）の充実について。

2、交流いきいき産業のまちづくりについてお伺いいたします。

それも同じく第2次総合市民アンケートでは、働く場に恵まれているかの問いに、思わないの割合が70.6%であります。就職、企業誘致、起こす起業の雇用創出の特徴的な意見の中には、既存企業、新しい仕事をふやしてほしい、資格を生かす職場がない、賃金も安い、自然環境の保護と有効活用、その分野の職業や仕事の創生とか特徴的な意見がございました。

そこで、以下について項目により質問させていただきます。

- (1) ものづくりに携わる人材育成の推進及び優遇制度の調査・検討について。
- (2) 企業支援室の成果及び糸魚川産業振興センター（I t o - B i z）の創設について。
- (3) 職業訓練校の充実及び経営者育成学校の創設について。
- (4) 企業の地方拠点強化策及び県やN I C O（にいがた産業創造機構）との連携について。
- (5) クラウドソーシング導入・在宅ワーク推進及びテレワークによる働き方改革について。
- (6) ジオパーク資源等を活用したD M O 観光地域づくりについて。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

五十嵐議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、当市の地理的、地形的な要因もあり、極力市内で完結できる医療体制が必要であり、糸魚川総合病院においては、地域包括ケア病床と高度治療病床を整備したところであります。

2点目につきましては、糸魚川市医師会及び糸魚川総合病院の協力を得る中で365日24時間の救急医療体制を維持いたしておりますが、市内開業医の高齢化や糸魚川総合病院の医師の減少などにより救急医療に携わる医師の不足が課題であります。

3点目につきましては、開業医の確保はもちろんでありますが、特に病院勤務医の確保のため当面は、可能性の高いより多くの研修医から研修先として選択いただけるよう取り組んでおります。

4点目につきましては、糸魚川総合病院では、あらゆる診療科目と連携できる総合医療医を育成していきたいと考えており、市も支援してまいります。

5点目につきましては、本年秋に、長岡赤十字病院を基地病院として2機目のドクターヘリが配備されますので、現在より到達時間の短縮が図られるものと考えております。

6点目につきましては、現在、市内4カ所の医療機関で通訳を実施いたしておりますが、今後は市内のより多くの医療機関でサービスが受けられるよう関係機関と協議してまいります。

2番目の1点目につきましては、これまでも中小企業大学校等における研修費用の助成のほか、資格試験、受験料の助成、職業訓練校における訓練への支援を行ってまいりまして、今後もさらなる調査・研究を進めてまいります。

2点目につきましては、企業支援室では、商工団体を初め関係機関等と連携を図る中で、なりわいネットワークや創業支援ネットワークなど企業支援の連携拠点としての役割を果たしているところでありまして、糸魚川産業振興センターの創設は考えておりません。

3点目につきましては、今後、職業訓練校におけるメニュー拡大を進めていくとともに次世代ビジネスリーダー育成研修を支援してまいります。

4点目につきましては、国において促進する税制措置が創設されておりますので、今後とも情報収集を行ってまいります。

また、引き続き、県やN I C Oと連携いたしまして、新商品開発等を図ってまいります。

5点目につきましては、このような働き方のニーズも高まっていくことが予想されますので、今後、人材の育成・確保が必要と考えております。

6点目につきましては、観光協会を核としてDMO観光に取り組み、交流人口の拡大を図ってまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、部長、課長の答弁もございますのでよろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ありがとうございました。

1番目の医療関係でございますが、医療関係の施設で、糸魚川病院並びに先ほどありましたように国保診療所とか補助ありますが、近年の26年、27年度の具体的な、28年度も含めて具体的な補助金、どれだけ支出してるんか教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えいたします。

まず、施設整備につきましては、平成27年度で市長答弁のほうからありました地域包括ケア病棟の整備、これにつきましては、県の補助金を活用する中で整備しておりまして、市としての補助金は支出いたしておりません。本年度につきましては、術後の管理、ハイケアユニットの部分につきまして整備させていただいております。これにつきましては、今、予算上は3,000万というような形で市の補助金が出ておりますが、今の段階の決算見込みの中では、それより下回るという状況でございます。

そのほかに医療機器整備といたしまして26年度におきましては、眼科手術システムといたしまして、国・県・市の補助金合わせた中で1,512万円を補助金として支出させていただいております。27年度、本年度につきましては、内視鏡画像サーバーということで、これも国・県・市合わせて1,115万2,000円の見込みでございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

その件につきまして、国保診療所も含めて先ほど渡辺議員にも質問がありましたように、今では地域医療、糸魚川総合病院から研修医が、送って実践の場ということでやられてる。MRI・CTも整備されて、先ほどの答弁を聞くと全市的に広く周知していくということなんです。この医療施設等設備で糸魚川総合病院もかなり整備されておるんですが、先ほど、下のほうにも関連してくる医師不足も含めて、これが全部補助金で賄って、県から国から市の補助金、負担も含めて医師の確保というの、本当にこの場では救急専門医も含めて、この施設が使われるんですか。使われている、回っているんでしょうか。その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えいたします。

先ほど申しました施設系の整備の部分の中の包括ケア病棟につきましては、今までは急性期と慢性期との病床しかなかったわけですが、回復期ということで一旦、急性期から回復途中のところであった方を回復期の病床において在宅へ向けたそういった支援をするというような病床をつくる中で機能させていただいておりますし、ハイケアユニットにつきましては、やはり救急医療の携わる医師の関係もございますので、ただ全面的に直ちに活用という形ではございませんが、なるべく重症の方であっても事後のケアができる病床となっておりますので、そういった部分の中で活用させていただいているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

救急病棟とかいろんな形で整備されておるんですが、糸魚川総合病院への重症の救急の搬送数、これがちょっと糸魚川総合病院から管外への転送も含めて患者数の推移、その辺を教えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えいたします。

ここも年度ではなく、年の扱いということでございますが、直近の平成27年におきましては、救急車で糸魚川総合病院へ搬送した件数につきましては、消防のほうから1,775件というふうにお聞きいたしております。うち、市外への搬送ということになりますと246人が市外のほうへ搬送というふうな状況になっておるところでございます。総数につきましては、過去二、三年につきましては、ほぼ同程度、ふえても微増・微減そういったところでございますが、若干、27年度の市外搬送につきましては、若干ふえてるというような状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

重症患者も含めて市外への搬送もふえてる。救急外来医ERも糸魚川総合病院にはいない。医師確保で365日24時間体制をやってるけど、消防のほうで救急救命士によると医師がいないと県中や富山のほうへ搬送されるということで、やっぱり樋口糸魚川総合病院の院長もおっしゃってるとおり研修医だけじゃなかなか難しいんで、人への投資、これは本当に厚生連に頑張ってもらわなければならないんですが、今度また制度が変わって、県によると、平成29年度から始まる新たな専門医制度、専攻医、これがまた初期の臨床研修後、専門医を目指して研修を行う専攻医の県内定着を含めてやっとならざるんですが、その辺の今の状況、富山大学、新潟大学、ほかの大学からの連携も含めて医師の確保というのは、その辺でできてるんですか。今の状態と今後どうやっていくのか教

えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えいたします。

医師の確保につきましては、これまでの議会の中でもお答えしてましたように、やはり富山大学、新潟大学からの派遣の比重が大きいです関係ございますので、そのつながりを大切にしながら進めてまいりたいという基本的な考え方は変化はございません。

また、昨年の27年度、本年度に入りましてから厚生連が横浜市立大学のほうに寄附講座を設ける中で、今現在、月2回、救急を担当する医師ということで派遣いただいている部分があります。そういった形で新幹線開業、時間的な制約が解消されてきましたので、そういったものを活用しながら進めてまいりたいというふうに考えておりますし、なかなか大学を通じる中でも大学の残る医師数がふえてない状況の中では厳しいという部分もお聞きしておりますので、やはり糸魚川市出身の方、またそういった縁故をうまく活用する中で働きかけできないかという部分につきまして、糸魚川総合病院と協議をして進めてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

先ほども答弁ありましたように2005年、2006年ですか、泌尿器科の常勤がいなくなって、耳鼻科も2012年ですか、それと昨年は、2015年、脳神経外科が非常勤になった。この辺でまた、次のこの4月からとかそういうのは大丈夫なんでしょうか。その辺情報としてはあるのかどうか、その辺教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えいたします。

まず、4月からの分につきましては、糸魚川総合病院から正式な部分での情報提供という形ではいただいておりますが、一部、内科系の中の一部の専門について、今検討してるというお話は、糸魚川総合病院から直接ではございませんが、私どものほうに情報として入ってきてるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

今のところ情報が入ってないというんで、予算委員会までに調べておいていただきたいと思う

っております。

それで、先ほど医療関係で国保診療所、建物も含めて機械、MRI、CTも配備したと。私は今度、糸魚川総合病院に対して365日24時間体制の開業医さんからも入っていただいて、開業医との連携も含めてやっぱり必要になってくると思うんで、その辺になれば医療施設等の設備も市からの補助とかでなく、みんなでまとめたチーム医療ができ上がってるんだから開業医の皆様にも整備の費用とかいろいろな面で補助金、県があるかどうかわかりませんが東京都ではあるみたいなんですけど、その辺も必要だと思うんですが、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えいたします。

まず、糸魚川総合病院と限らず病院につきましては、やはり地域医療を担っていただく中核的な施設という位置づけの中で施設また機器等の整備に対しても支援させていただいておりますし、開業医の皆様方につきましては、開業されるときに1,000万を限度でございますが、そういった補助金制度を設けさせていただいてるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

開業をされるときに1,000万上限で、そのほかにやっぱり機器とか購入も含めて、また入れかえもいろいろな形で必要になってくると思うんで、そのときに補助金も含めて助成、その辺はいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えいたします。

支援できれば一番よろしい部分でしょうけど、やはり開業医の皆様方も医療機器の更新等もいろいろ多数ございます。それを全て市側のほうで支援ということはなかなか難しい状況だというふうに認識しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひその辺も検討していただきたい。365日24時間体制、開業医の皆さんから糸魚川総合病院にも月何回かですか、2カ月に1遍ぐらいですか、その辺も含めてやっておられる方ってやっぱり必要だと思うんで、民間とも公民連携です。それは必要だと思うんですが、その辺、市長いかが

ですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

非常に他の都市と違って糸魚川は、開業医の皆様方と糸魚川総合病院との連携が非常によくやっ
ていただいて、本来ですと救急医療の当番は回っていくんですが、糸魚川はそうじゃなくて、糸魚
川総合病院に皆さんが入っていただいて受け持っていてのやり方でございます。そのような
ことから集中的に糸魚川総合病院に支援をさせてもらってる部分がございます。そういった形で民
間の皆様方も開業医の皆様方がそういう形になってくということになれば、またそれはそのときに
考えなくてはいけないんだろうと思ってるわけでありますが、現在は、集中的に糸魚川総合病院で
取り組んでおるのが実情でございますし、まだ今いろいろ情報交換をさせていただく中においては、
しばらくはこのままで行きたいという話も聞かせていただいております。

そういうようなことで、やはり救急医療が一番大切だなと思ってる次第でございますし、それ
に対しては、市も積極的に連携をさせていただいて市民の安全・安心につながるようにしていきたい
と思っております。

そして、やはりもうしばらくはまだ続くんだろうと思うわけでございますが、医師の偏在、私は
医師不足じゃないと思っております。医師の偏在性だろうと思っております。なかなか我々のとこ
ろへ来てくれない、それに対してどのようなことを行えば医師が来ていただけるか、その魅力づく
りというのも大切だろうと思ってるわけでありますので、今進めておる段階でありますし、またい
ろんな情報収集をする中で、少しでも糸魚川市に来ていただけるような環境をつくっていきたく
と思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

そこで、先ほど横浜市立ですか、の救急の方は、週に2回ですか、来ていただける、その辺なん
です。1本釣りだと思っんです。今、富山大学からもなかなか来られない、新潟大学も含めて自分
たところへばっかり行って、そのちょうどすき間ですか、糸魚川市にはなかなか来ていただけない。
そうなればやっぱり1本釣り、民間の力を借りて、いろいろな医師の情報、医師の求人、エムスリ
ー、エムスリーグループ、これとリクルートドクターズキャリアとかいろいろな形で何万人も登録
医師、これのエムスリーには医師会員20万人以上、リクルートの関係では30年以上の実績で非
公開求人が1万件以上もやってられる。そこになってくると思っんですよ、今度は、医師不足なら。
本当は厚生連が頑張ってもらって、違う厚生連同士で定着していただければいいんですが、その後
やっぱり糸魚川市全体の医療なんで、やっぱり糸魚川市も絡んで、県も含めて、今、県かなりいろ
いろな形で若手の医師確保定着でやってもらったり、民間医師紹介等の活用促進で今回の適正、昨
年から乗ってきています。その辺も含めて、市・県・国も含めて民間活用も含めてやっぱり医師確

保をやっていかないと、私は糸魚川市定着、移住・定住なんておかしいというぐらいになると思うんです。このぐらいやっぱり医師確保に努力していただきたいと思います。その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

医師確保につきまして、民間の紹介所、そういった部分につきましては、確かに制度的にはございますし、今、議員のほうからお話ございましたように県のほうでも補助制度的なものは持っていることは承知しております。そういった部分につきましても医師確保の1つのための選択の手段だということも認識しております。

ただ、民間の紹介所を通しますと、やはり面接等はしますが、こういった人材の方がおいでいただくのかという部分がなかなか難しいという面も、この辺は十分慎重にしていかなきゃいけないというふうに認識してございます。

なお、先ほどちょっと申し上げた、私が言い間違えたのかしれませんが、横浜市立のほうには、週にではなく月にということで、申しわけございません、私が言い間違えたのであれば訂正させていただきます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

やっぱりその辺も含めて厚生連としっかりとタイアップしながら医師確保の努力していただきたい。

それと、今、研修医が6人、昨年も6人ですか、来ていただいている。その方々とも国保診療所と行き来、私は開業医の方々とも一緒に連携しながら、研修医だけでなく違う方々も必要だし、先ほどもありましたようにふるさとから出た、それで医者になっている方、その方々来てもらえれば一番いいですけど、その方のネットワークも必要だと思うんです。こういう人がいますよと紹介してもらって、糸魚川に来てもらうような、今、新幹線時代で横浜からすぐでしょ、月2回ですか、月2回は週2回ぐらいにしていいただきたいと思いますし、やっぱりその辺必要だと思うんですが、その辺はいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えいたします。

先ほど申し上げました、やはり糸魚川市につながるのある方の情報、そういったネットワークを活用するということは大変重要だというふうに認識しております。

ただ、こういった診療科目が必要なのか、そういった部分につきましては、糸魚川総合病院というんな形で協議を進める中で実現に向けた努力をしてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

先ほどもありました総合医も今、糸魚川総合病院から育てていただいて3人ぐらいですか、ぜひその方々も糸魚川総合病院に定着していただく方々も育成しながら、そのほかの、やっぱり救急病棟もできとるんでER、やっぱり救急外来医も含めて1本釣りくらいできるような形でやっていただいて、研修医もまたそこに入ってくると思うんで、大事な医療をぜひすばらしい形にしていきたい、こう思っています。

それと、ドクターヘリ、長岡の赤十字病院にこの秋ですか、そこへ行くと糸魚川地域から本当に近くなるんですか。その辺やっぱり本当に重症者になればドクターヘリですよ、県中にも運べるでしょうから。その辺の短縮、どれだけ短縮されるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

消防長（大滝正史君）

お答えします。

現在、新潟大学の医歯学総合病院から1機目の場合では飛んできます。その場合、約150キロ、飛行時間で45分ということでございます。それが今、長岡の赤十字病院という2機目のものであれば約100キロメートル、約30分ぐらいという飛行時間になります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

それではやっぱり遅いんです。2機目の導入、妙高市と糸魚川市も含めて要望を県に上げたけど2機目は長岡に行っちゃったと。空白の時間ができてくるんですよね、さっき100キロなら圏外なんですよ。糸魚川市の途中までしか、30分ぐらい本当に市振の先まで30分で行けるんですか。こっちには3,000メートル級の山もありますが、その辺間に合うんでしょうか。その辺やっぱりしっかりいいヘリコプター買って下さいぐらい言ってください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

消防長（大滝正史君）

その辺のことにつきまして、できるだけ早目に新潟県の西の端をカバーしたいということで、県のほうでは、1機目の機体よりも高性能の飛行速度の速いものを選定をして、できるだけ早く到着できるような体制を検討しているというふうに聞いております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

1機目、新潟、2機目、長岡、県議会議員の答弁を聞くと糸魚川、富山とか長野との連携でないんですね、群馬と長野との連携ばかり言って、富山の連携含めてこっちのほうの北信地域の長野との関係も含めて、やっぱりこの辺をしっかりと3機目も目指してやっていただきたいと思うんですが、その辺、市長どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

健康増進課長（山本将世君）

お答えいたします。

隣接県との連携につきましては、私どもとすれば地形的にやはり富山が一番近いわけでございますので富山の連携という部分につきましては、この1月の中でも市長ともども県のほうの部長のほうにそういった要請に伺わせていただいております。県のほうにおきましては、先ほど消防長が申し上げましたように2機目の長岡配備、これを高速速度が速いものを入れて、富山の、こちら入善、泊部分も30分圏内に入れる形の中で連携を富山のほうに打診をしたいというようなお話では聞いております。私どもとすればそういった部分は、富山は配備になっておりますので、1日も早いということで1月にお願いにお伺いした状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ありがとうございました。そこまで高速化していただいて富山も含めてやっていただいている、ありがとうございます。じゃあ3機目いらぬがになりますかね、その辺も含めて1機目、2機目使っていればなかなか今度は富山との連携、長野の連携も含めてぜひお願いしたいと、こう思っております。

それと、次に入らせてもらいますが、ものづくりの関係で中小大学校とか受験料、職業訓練並びにやっとならぬんですが、私一番言いたいのは、ものづくりでふるさと就職支援だとかやってるんですが、地元にはUターンではなく、地元におりながら、ふるさとにおりながら今ものづくりに対して修行中、そういう二、三年、一人前になるっちゃその辺も必要だと思ふんで、その辺の若者・女性も含めて優遇制度とかその辺も含めてあるのかどうか、やっていただきたいと思ふんですが、予算とかならぬと思ふんですがその辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

今お話のような技術の中では、ヒスイの加工もありますでしょうし、それから能生での菅笠づく

りですとか、それから能生地域の方でも着物の帯をしっかりと家内工業的に取り組んでおられるというふうな、そういう技術をしっかりと持ち、なりわいとされてる方々も多くあると思います。そういう方々の技術をどのように伝承していくか、その伝承についての一部人件費的な支援をというふうなお話だというふうに受けとめておりますけども、人件費を直接支援するというメニューは、今のところございませんけども、新たなそういう事業を伝承するという事業、その資金調達方法といたしまして、今、新年度で考えておりますクラウドファンディングというものを考えておりました、その中で人件費の資金調達も可能となってきておりますので、そういう情報も収集して、またお話してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

クラウドファンディングのほうは、またソーシングも含めてやらせていただきますが、本当にものづくりいっぱいやっとなと思うんですわ。そこで、日本料理も含めてさっきの和菓子とか大工さん、板金とか左官、瓦、今言われたヒスイ加工とか職人の方々も含めてやっぱり育てていくべきだと思いますんで、それで職業訓練校は予算にも載ってますが、拡充されるんでしょうか。その辺も含めて、ものづくりも含めてやっていただきたいと思うんですが、それはいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

糸魚川職業訓練校につきましては、旧の今井小学校のほうに移転し、新たな館の中で、今、訓練校に取り組んでいただいております。大工さんの見習いからパソコンからいろんな事業に取り組んでいただいておりますけども、今、議員からお話のような特殊な技術、伝統、技能等を市内の産業界、経済界でどのようなものがまた必要な職種で技術なのかというふうなところも、実は地方創生の総合戦略をつくる関係団体との意見交換の中でも、実はお話が出てきております。それらを含めて職業訓練校とも新たな授業をつくっていけないかというふうなご相談を申し上げるところでありまして、いましばらくお待ちいただいて、新たな教室の開設に向けて訓練校と取り組んでまいりたいというふうに考えておりますし、あわせてハローワークとの連携も大変重要になってくると思っておりますので、そこら辺も含めて取り組んでまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ本当に民間とともに企業も含めてものづくりの方々も、やっぱり後継者不足でなかなか定着しないって高齢化が進んでるみたいなんで、やっぱり若者が定着できるように、女性も活躍できるような場もぜひお願いしたいと思ひまして、燕三条の地場産業振興センターも含めて燕三条ものづくり大学というので、いろんな訓練のところ、補助金の中に三条校も補助金対象になってますが、

上越も含めてどういうものが訓練校にあって、一覧で見られるような形というのは、ものづくり大学みたいなのは必要だと思うんですね、今こそ。近隣の、富山も含めているんな形で半径どのくらいにするかあれでしょうけん、その辺もまとめてこっからでも通える補助も含めてやっていただきたいと思うんですが、その辺いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

お答えいたします。

燕三条地場産業振興センターのカリキュラムは、非常に多岐にわたっておりますし、カリキュラムを実施している団体も幅広くございます。特に、大学校でありましたり、専門学校でありましたり産業センターでありましたり、そういうところが主体となった事業内容が多いというふうに感じておるところでございます。

当市におきましては、先々日の土曜日の日、糸魚川創業支援ネットワークによりまず初めての体験セミナーを開催させていただきました。これは産業競争力強化法に基づきまして、糸魚川市が創業支援ネットワークを立ち上げさせてもらって初めてのセミナーでございましたけども、関係者も含めると約40人お集まりいただきました。日本政策金融公庫の方から創業の準備や成功のための秘訣のお話をお聞きしたり、また市内で創業された具体的なお名前を出しますとフェルエッグさんでありましたり、ブオーノさんでありましたり、この2人から体験談をお聞きして、これから創業いたしたいという方々の参考になる話をお聞かせいただいたところであります。

今、ご質問のようにそういう学校なり組織をつくる必要があるんじゃないかというふうなお話をいただいたわけでありますけども、引き続き、新しくできました糸魚川創業支援ネットワークを十分に活用して効果を出していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひそれも本当に拡充しながらいろいろな若者、女性も含めて定着できるような、本当に効果の出るような企業をどんどんふやしてチャレンジできるような体制をしていただきたいなところ思っております。

飯田市では、ものづくりから事づくり、さらに物語づくりなんです。糸魚川市は物語をどうつくるかということで、物語の深化をやっております。チャレンジ精神なけりゃできませんので、ぜひその辺も含めてやっていただきたいところ思っております。

それと、企業支援室も含めて建設産業常任委員会で市外調査をやって委員長から報告がありましたように、OkaBiz、岡崎のビジネスセンター並びに、私も一般質問で取り上げていた静岡の富士市産業支援センター、それと岡崎でもありましたAmabiz、天草市独自で市長のトップダウンで企業支援室みたいなのを立ち上げて、それ専門にやってるんですよ。私はやっぱり市職員なら二、三年でかわったり、変更しないように独立した形にするか、市で10年ぐらい専門家にや

らせるのが、本当は商工会議所がやっていただければいいんでしょうけど、そうではなく独自のものが必要だと思うんですがいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

独自の組織につきましては、1回目の市長答弁の考え方のおりでございますけども、前段申し上げましたように支援ネットワークができましたり、あるいは地方創生の関係で産学官金労言の関係団体との意見交換会も今まで以上に進めさせていただくことができました。そういうことで、関係団体と今まで以上に連携して取り組んでいきたいというところでございます。

それから、地方創生の特別委員会でもいろんなご提案をいただいております。特に、商工農林水産課のほうでは、産業部門でいろんなご提案も受けておまして、昨年、当課の主査以上につきまして3班体制で勉強会をさせて、先進地のほうも行かせました。1つの班では、起業家創出支援事業の調査ということで、1つの班が起業家オーディションや起業家塾、インキュベーションなり勉強させてもらってきております。それらの勉強の成果をこれから深めて具体の事業に取り組んでいきたいというふうに考えております。

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員の一般質問の途中ではありますが、昼食時限のため暫時休憩をいたします。

再開を午後1時といたします。

+

+

午前11時59分 休憩

午後1時00分 開議

議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を再開いたします。

休憩前に引き続き、五十嵐議員の一般質問を行います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

午前中に引き続きやらせていただきます。

先ほど齊藤課長よりありましたが、支援ネットワークとかいろいろな形ですばらしい企業が出てきてるということで、なりわいネットワークとか、ものづくりネットワーク、この前の定例会も我々も参加させてもらいまして、すばらしい企業の方々いろいろな形でやられてるということはすばらしいんですが、私が提案してるのは、建設産業常任委員会でも行きました岡崎、OKa-Biz、これはなりわいネットワーク、ものづくりネットワークは、すばらしいのでネットワークやられてる。そのほかにもいろいろな商店並びに企業もある。そういう方々も含めながらどうコーディ

ネットやプロデューサーも含めて相談に乗るかどうか。岡崎では、相談件数年間で1,400件、リピーターが70%、やっぱり相談者から高い評価を受けてる。そういう方々は一生懸命で、次に出てくる県とかNICOに結びついていたりしてるんですが、そうでない方々も誰と誰を結びつけてコーディネートして、どう起業化も含めて売り上げを伸ばすか、いろいろな形でやっていくのがIt o - B i zなんですけど、その辺も必要だと思うんですがいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

議員言われますように、ごもっともだと思っております。ネットワークに加入していない皆様方、それ以外の方をどのように結びつけていくかということにつきましては、市長の1回目の答弁でもそういう組織はつからないという答弁はさせてもらっておりますけども、やはり関係機関等の連携を今まで以上に密にして、掘り下げてそういう声をすくい上げ、ネットの中でトータル的にコーディネートしていくかということが大変重要になってくるんだろうと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひそういう仕組みづくりというか事業体ですか、その辺も含めてプロジェクトチームかワーキングチームに結集して、またやっていただきたいと、こう思いますし、どこが主体になるかも含めて、天草市みたいにAma - b i Zで市長のトップダウンとかもありますんで、いろいろな面で調査研究していただいて、企業がやっぱり糸魚川市で起業したいという気持ちになっていただくようなのと女性・若者が糸魚川市に来て働きたいなということも含めてぜひやっていただきたいと。

それと、NICOに、ものづくりネットワークを含めてちょっと勉強させてもらったんですが、その中に新潟県のNICOがやってるよろず支援拠点、疑問に思ったことがあったら気軽に相談してくださいよということで、上越地域担当とかコンサルティングの人だとか担当もいますし、相談は無料で回数制限なし、解決まで何度でもどうぞということで、やっぱりこういうすばらしいのをやってながら、紹介をしながらNICOさんに相談していく、こういう考えがあったら、気づいたら相談に行くという方式も必要だと思うんです。これすばらしいと思うんですが、その辺はいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

やはり相談しやすい、話しに行きやすいという環境づくりの中によろず相談もあるんだろうと思っておりますし、また当市におきましては、NICOカフェというものも開いて相談の場を開催しておりますので、もっとPRを十分にしながら敷居の低い、相談しやすい会場づくりを努めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ本当に気軽にこういうのを考えてるんだけん、どうしたらいいねぐらいの、本当に気軽に行くような体制づくりをしていただきたいと思いますと思っております。

それと、これも新潟県の事業引継ぎ支援センター、これも後継者も含めてこういう相談もあるそうなので、やっぱり後継者、今、高齢化しとるんで若手も含めていろいろな形で、ただ先祖代々から続いとるのではなく違う外部の人も入ってもらうような、例えば田鹿麩店ですか、そういう違う全国公募ぐらいしてやっていただくような形とか、例えばですけどそういう事業者がかなりあると思うんで、それも含めて相談支援センターというのあるんですが、これも秘密とかいろいろございますが、それも相談無料、いろいろな形であると思うんですが、この辺もいかなもんでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

今、議員のほうから田鹿さんというお話が出ました。非常に私も昔からの伝統、糸魚川で培ってきた伝統の品物がなくなるということは、非常に残念に思っています。それで、NICOを利用して、今ワサビの開発でありましたり、かまぼこでありましたり、いろんな部分でNICOとも連携しております。

また、NICOと連携する中で新しい技術、新しい商品開発の支援も受けておりますので、引き続きNICOとのパイプをしっかりと持って取り組んでまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひNICOとの関係、県との関係でやってる方々は、かなり進んでるんですが、それ以外の方だと思っんです。本当に気軽に参加、相談していただいて、売り上げを伸ばしていただけるような本当にIt o - B i zみたいな形でやっていただきたいと思います、こう思っております。

それと、先ほどもありましたが、クラウドファンディングを活用してふるさと投資ということでやっていくということなんですが、それと含めて私が提案してるテレワーク並びにクラウドソーシング、在宅ワーク、これも本当に女性が子供を育てながら、親を介護しながらできるような、本当に今、ICT時代ですんで、その場に行かなくてもパソコンでできる時代ですので、こういう仕組みづくりちゃ本当に必要だと思っんですが、個々を育てながらどうするかというのは、お考えはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

クラウドファンディングにつきましては、先般も糸魚川信用組合さんの広報誌で、多様な資金調達で地方創生というふうな見出しの中から、クラウドファンディングを活用したふるさと投資というふうな広報がなされたと思っております。当市におきましても、このような個人投資家からの資金調達をする手段といたしまして、新年度に活用を考えておりますので、また新年度予算、予算審査特別委員会の中でもまたご説明させていただきたいというふうに考えております。

また、もう一つ、テレワーク、ICTを活用したというご提案だと思っておりますけども、実は昨年、農業関係で初めて田んぼオーナー制度というものを糸魚川市で採用させていただきました。市内に縁のある方が社長で、IT企業の方でございましたけども、糸魚川駅北口の空き店舗で事業を開始していただきました。今現在、社員が3名というふうにお聞きしておりますけども、非常に事業のほうも順調だということで、今後、ITを活用して在宅勤務を検討しているというお話も聞いております。そのようなものがどんどん進んでいきますと地元雇用、今お話がありましたように女性の雇用、あるいは首都圏からの移住・定住というところにも広がっていくんだろうと思っておりますので、そういうところも注視しながら、また必要なところは一緒になって取り組んでまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひお願いしたいと思いますし、海士町も先ほども話題に出ましたが、地域のICTを利活用してモデル構築事業、都心と情報をスタートして海士町と東京との双方向メディアで東京の麹町とか結びつきもありますが、本当に都内との飲食店とのディスプレイを設置して、牛だとかサザエだとかいろいろな形でやっとならということ、それでUターン、Iターンに結びつけるような、移住・定住に結びつけるような形もやっているとということなんでぜひお願いしたいと思います。

それとDMO、これ先ほどちょっと聞き逃したんですが、どういう方向なのか、県としてもかなり、このDMOを補助金つけてやっていくような形なんですが、糸魚川版のDMO方式はどうなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

DMOにつきましては、観光庁が今、事業を進めているところであります。簡単に申し上げますと地域の多様な関係者、いろいろな関係者を巻き込みつつ科学的アプローチを取り入れた観光地づくりを行うかじ取り役が日本版DMOということでありまして。これからの糸魚川市の観光地づくりを進めていく上では、このDMOの考え方が非常に重要だと思っております。市長が答弁しましたように観光協会を核に申請に向けた手続きを進めていきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

洞爺湖有珠山ジオパーク、これも洞爺湖町と豊浦町、壮瞥町、これも地方創生で交付金申請して9,400万ぐらいついでる。これもやっぱりジオパークを本当に利用して経済に結びついていたきたいんですよ、やっぱり。いろんなまちづくりも含めて農産物、農林水産業も含めて、商店街も巻き込みいろいろな形で、そのDMOという組織をつくりながら、このジオパークも含めてどうやっていくか、これが一番、すぐつくれっちゃあないんです。やっぱり皆さんで協力して組織を挙げてどうするか。県に聞けば本当に全部分析、地方をその辺でマーケティングの分析をしながらやってくると、県が調査して。ちょうど手を挙げるのは本当にいいと思うんで、ぜひお願いしたいと思うんですがいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

今お話のあった洞爺湖町も今DMOの9,000万円が国の補助金をもらってやろうとしています。この取り組みの中にも日本全国のジオパークは関連してやっていこうという取り組みであります。糸魚川市からも「まこちゃんうどん」などを洞爺湖のほうに持ち込みましてPRする予定に今しております。スケジュール的には、今現在、観光協会が日本版DMO候補法人の登録に向けて作業中であります。できれば年度内に申請をしていきたいというように考えておまして、いずれにしてもこのDMOを中心にしながら糸魚川市の観光地づくりを進めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

すばらしいことをここまで具体的にやってるというのは知りませんでした、ぜひこの辺も含めて力強く、妙高に負けんように進めていただきたいと思います。

これで一般質問を終わります。ありがとうございました。

議長（倉又 稔君）

以上で、五十嵐議員の質問が終わりました。

次に、古畑浩一議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

古畑議員。〔20番 古畑浩一君登壇〕

20番（古畑浩一君）

奴奈川クラブの古畑浩一でございます。